

教科	資質・能力	現在の児童・生徒の実態や授業についての分析	授業改善のための具体的な方策
国語	知識及び技能	実態 漢字や語彙、文法等の定着が二極化している。	毎週金曜日の漢字テストの出題方法を柔軟にする。 既習の漢字を日常的に使用するよう、各教科で指導する。
	思考力、判断力、表現力等	考えの形成が弱い。そこに至るまでの各過程の指導事項の指導が行き届いていない。	各過程における指導の充実。「自分で考える→友達とお互いの考えを交流・共有しながら自分の思考の安定を図る」という意識がもてるよう、指導を強調していく。特に読むことの学習において、「構造と内容の把握」～「精査・解釈」の過程について、文章全体と段落や場面の関係を捉えたり、全体に対する段落や場面どうしの関係を見極めたりできるような指導を工夫する
	学びに向かう力、人間性	「やってみたい」と意欲的に活動する児童とそうでない児童の二極化している。	導入時に、単元全体やその時間の学習の見通しを持たせる。「楽しそうなのでやってみたい」「大切な学習だからやらなければ」と思えるような導入の工夫をする。さらに、学び方明示して「できそうだ」と思えるような工夫もする。
社会	知識及び技能	・学習した内容が定着していない児童が比較的目立つ。資料の概要をつかむ力は身に付いているが、資料同士を比較・検討することは難しい児童が多い。	確実に学習した内容を理解させるために、見る、聞く、話す等様々な感覚に訴える。そのため、ICT機器の活用や学習形態を工夫する。
	思考力、判断力、表現力等	課題を多面的・多角的にとらえたり、思考したりすることには課題がある。学習したことの表現に関しては、得意な児童と不得意な児童とで二極化がみられる。	課題の捉え方や思考することに関して、意見の交流を大事にする。これにより多面的・多角的なものの見方、表現力の向上を図る。
	学びに向かう力、人間性	・学習内容が、身近な地域（東村山市や東京都）から全国に広がっていくので、興味・関心が低下しがちである。	ICT機器等を活用し、興味を持たせるために課題の提示の仕方を工夫する。
算数	知識及び技能	計算や作図など、基本的な知識・技能の定着が比較的難しい児童が多い。	・個別の課題に応じたプリントを用意したり、学習の時間を確保したりして基礎的な知識・技能の定着を図る。
	思考力、判断力、表現力等	自分の考えを、自信をもって表現できる児童が少ない。自分の考えをもてる児童。	・ヒントカードを用いたり、ヒントの共有を図ったりして一人ひとりの児童が自信をもって考えることができるようにする。
	学びに向かう力、人間性	苦手意識をもっている子が多く、意欲的に取り組むことが難しい場面がみられる。	ICT機器等を活用するなど、興味を持たせるために課題の提示の仕方を工夫する。
理科	知識及び技能	観察は興味をもって行い、ポイントを意識して行うことができる。一方で、これらのことが知識として身に付いているとは言えない。	観察や実験したことを深く印象付けられるように、こまめにふり返りをしたり、授業の様子を教室に掲示したりするなど、児童がその場面を想起できる工夫をする。
	思考力、判断力、表現力等	実験の方法を考えて調べることはできるが、結果から考察する力が乏しい。また、予想を立てたり考察したりしたことを、どのように表現したらよいかわからない児童が多い。	予想→実験→考察+表現の過程をパターン化し、充実させる。また、考察すること考察するときには表現のしかたを例示したり、考察するためのポイントを明示したりする。
	学びに向かう力、人間性	実験や観察は関心をもって行うことができる。しかし、考察したりノートにまとめたりするときに、途端に意欲が低下してしまう児童が多い。	関心意欲を高められるよう、体験的な授業を多く取り入れていく。また、書くことに苦手意識のある児童には、穴埋めをするだけでよいようなヒントカードを用意し、意欲を持続させる。
	知識及び技能	・今までに学習したことは理解できている部分が多いが、技能面においては大きく差がある。少し難しい課題でも、練習方法を工夫して提示すればしっかり取り組んでいる。	・ICT機器を有効に使用して、反復練習をなど行い、何度も児童に経験させる。 ・リコーダーの技能が追い付かない児童は個別に声かけをして、指導する。

音楽	思考力、判断力、表現力等	・自分なりの音楽を表現したいとは思っているが、思考の部分が浅く、あまり考えずに表現する児童が多い。	・思ったことをすぐに実行して満足するのではなく、教師側が様々な例を示し、表現の幅広さに気付かせていく。
	学びに向かう力、人間性	・様々なことに意欲的に取り組み、楽しんでいる児童が多い。	・児童が常に意欲的に活動できるように、1時間の授業の流れを提示する。 ・友達のよい所を学んで、自分でもやってみよう声をかける。
図画工作	知識及び技能	・これまでの材料や用具についての経験を生かしてつくることができているが、技能面には個人差がある。	・段階的な技能指導をする。個別に指導する。危険を伴う道具を扱う時は教員を多く配置したり、場所を工夫したりして安全管理を徹底する。
	思考力、判断力、表現力等	・枠にとらわれない自由な発想ができる。	・その子自身のよさが表現できるように、学習のめあては持ちながらも柔軟に指導する。
	学びに向かう力、人間性	・意欲的に取り組んでいる。しかし思った通りの表現ができないと、急に意欲が下がってしまう児童もいる。	・完成までの見通しが持てるように、導入で活動の流れをわかりやすく視覚化して伝える。児童の意欲を沸かせる魅力的な題材を扱う。個別に励ましの声掛けを行っていく。
家庭	知識及び技能	生活と結びつけて考えることが難しい場面がある。また、切る・縫うなどの面で技能差がみられる。	家族の一員であること、社会の一員であることを想起させるような言葉かけをしながら「知りたい」「できるようになりたい」と思えるような授業を展開する。
	思考力、判断力、表現力等	生活に必要なことや、大切なことを学ぶ中で、自らのこととして考えることが難しい場面がある。	自分の生活を想起させ、意識を「自分の生活」に向けさせた発問を心がける。
	学びに向かう力、人間性	意欲的に取り組むことができる児童とそうでない児童で二極化がみられる。	学習したことを生かしていけるように、具体的に例を挙げるなどして学習を進める。
体育	知識及び技能	・運動技能に差がみられる。 ・運動の仕方については大体理解している子は多いように感じる。	これまでの運動経験に差がみられると思われるので、準備運動等において継続的に様々な動きを経験させていく。話し合い等を大事にし、運動の仕方を意識させていく。
	思考力、判断力、表現力等	・各種運動におけるコツやゲームにおける作戦等では一部の児童が活躍していることが多い。	チーム内での話し合いや共通理解を図る機会を設け、活動する際の思考面での学び合いができる環境を作っていく。
	学びに向かう力、人間性	意欲をもって学習に取り組んだり、目的をもって学習できている児童もいる。仲間と協力したり、前向きに学習したりする姿勢に課題がみられる児童が少なくない。	・学習の目的、楽しさを意識させる課題提示、声かけ等を多くする。
外国語	知識及び技能	外国語の表現等に慣れている児童も多いが、技能の獲得には二極化がみられる。	基本的な学習内容にかかわる言葉は繰り返し言わせたり書かせたりして、身に付けさせる。
	思考力、判断力、表現力等	言葉や生活習慣等、文化の違いを意識して学習できている子は多くない。表現力に乏しい	外国の文化を意識させた発問をしていく。スピーチに必要なヒントカード等を準備して、表現しやすいような工夫をする。
	学びに向かう力、人間性	比較的外国語に慣れている児童が多い。	友だち同士のコミュニケーションを増やしていきたい。活動しやすい楽しく、簡単なゲームを取り入れるなど工夫していく。